

「記録の標準化を目指して」

第2回 F-SOAIPの普及に向けて意見提言

本誌で好評連載中の「記録革命が未来を拓く」の特別企画として、6月号に引き続きF-SOAIP（生活支援記録法）の実践者による座談会をお届けします。



笠松信幸さん
日本介護支援専門員協会常任理事、
かさまつケアオフィス合同会社代表
(本誌2022年5月号掲載)



川添チエミさん
京都府介護支援専門員会副会長
(本誌2021年9月号掲載)



甲田由美子さん
京都府介護支援専門員会
認知症研修ワーキング担当理事
(本誌2021年9月号掲載)



関谷喜代美さん
主任介護支援専門員
日本ケアマネジメント学会認定ケアマネジャー
(本誌2021年10月号掲載)



遠藤貴美子さん
株式会社わかばケアセンター
居宅業務管理課課長
(本誌2021年10月号掲載)



杉田まどかさん
一般社団法人埼玉県ケアマネジャー協会
(本誌2021年11月号掲載)



福岡博聖さん
広島市観音地域包括支援センター
主任介護支援専門員・社会福祉士
(本誌2022年2月号掲載)



千葉明子さん
台東区社会福祉事業団
総務課主査
(本誌2022年2月号掲載)



小嶋章吾さん
国際医療福祉大学大学院特任教授



嵐末憲子さん
埼玉県立大学准教授

事業継続効果（BCP）を実現 PDCAサイクルの要として

嵐末 今回は対人支援の専門職、とりわけ介護支援専門員の専門性を高めるための効果的な記録としてF-SOAIPを普及させていくためにはどうしたらいいの。具体的にご提案やご意見を伺っていきたいと思います。まず関谷さん、いかがでしょうか。

関谷 ある事業所ではケアマネジャーは4名体制ですが、このコロナ禍で2

名のケアマネジャーが長期のお休みをとることになってしまいました。その間、残ったケアマネジャーがフォローした際に、記録をF-SOAIPで書いていたことによって、利用者さんへの対応をどうしていたのがとてもよく理解することができたそうです。もちろん、日ごろからお互いの利用者さんについて話すことはありましたが、「ここまで深く関わっていたんだ」と、新たな気づきが得られたことに驚きました。

さらにこの方に対してこういう支援

をしないと生活がままならなくなる部分があるということに気づいたときに、代わりのケアマネジャーでもすぐに対応することができ、支援の効果がとても上がったと実感したと伺ったときに、F-SOAIPはBCP、事業継続計画にも効果的なのではないかということを感じました。

ケアマネジャーが1人休むと、その人が抱えている40人分の利用者さんへの支援が滞ってしまいます。居宅介護支援事業所のあり方としてかつてからリスクを感じていましたので、